

「悪魔の誘惑に勝利されたキリスト」

(申命記 6 章 10 節～19 節)

「主の目にかなう良いことをしなさい。そうすれば、あなたは幸せになり、主があなたの父祖たちに誓われた、あの良い地を所有することができる。」(18)

(ルカの福音書 4 章 1 節～13 節)

「人はパンだけで生きるのではない。」(4)

「あなたの神である主を拝み、ただ主にだけ仕えなさい。」(8)

「あなたの神である主を試みてはならない。」(12)

今日のメッセージ要旨

◎主イエス様は、弟子たちが「祈ることを教えてください」と求めたことに対して教えられたのが「主の祈り」です。その祈りの中に「われらを試みに会わせず、悪より救い出したまえ」との一文があります。イエス様は悪魔の試みを受けられた御方です。ですからその誘惑の強いことを覚えられ、弟子たちのために、その祈りを教えられたのではないのでしょうか。

◎申命記 6 章には、戒めの要約と約束の地での生活について記されています。特にイスラエルの民は、主が力強い御腕によって自分たちを恵まれた十分なあかしを受けているのだから、マサの時のように、不信仰な眩きによって「主を試み」るべきではないのです。主の命令を堅く守るべきなのです。

「聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」(4-5)。これは神様のことば全体の要約でもあるのです(マタイ 22:35-38)

神様ご自身がイスラエルの民を愛するだけでなく、愛されることをも求めておられるのです。その関係は私たちにも求められていることなのです。「いのちを尽くし」(5)は新改訳聖書の脚注によれば「たましいのすべてをもって」とあります。どこにいても、どんなときも、だれに対しても、何をするかという以上に、主の御前で生き、主が私たちを愛して下さっているように、私たちも主を愛して生きる者であることを願っておられるのです。

◎ルカの福音書 4 章 1～13 節の主題は「悪魔の誘惑」で、マタイ 4 章 1～11 節、マルコ 1 章 12～13 節も同じ記事です。イエス・キリストはバプテスマのヨハネから洗礼を受けられた時、聖霊に満たされ、「あなたは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ」と神様のみ声を聞かれたのです。その後、「御霊に導かれ」て荒野におり、悪魔の試みを受けられたのです。私たちの歩みも自分の考えで行動するのでなく、神様の導きに従うことを第一にしたいものです。

そこでイエス・キリスト様は三つの誘惑を受けられました。第一はパン、第二は権力と繁栄、第三は魅惑的なものでの誘いでした。それらの誘惑にイエス・キリストは聖書のみ言葉(何れも申命記)によって勝利を得られたのです。それだけイエス・キリストは聖書に精通しておられたのです。私たちも是非聖書を通読し、み言葉に精通したいものです。かつてアダムとエバは蛇の誘惑を受けた時に「食べるのに良く、目に美しく、賢くする」のに好ましく覚え、神様のみ言葉に背き、罪を犯したのです。またイスラエルの民は荒野での旅路において「水がない」「パンがない」と眩き、「偶像を拝んだ」のです。しかし真の救い主であられるイエス・キリストはそれらの誘惑に勝利を得られたのです。サタンは今でも「肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢」等によって誘惑してくるのです。しかし「神の子が現れたのは悪魔のしわざを打ちこわすため」です。いつも神様の御前に「悪より救い出したまえ」と祈る者でありたい。